

1 事業の背景と特徴

- ・地方創生のために再生可能エネルギーを活用した取組を検討し、中でも木質バイオマス活用に注目していた。また、胆振東部地震による被災を経験し、公共施設における非常時電源の確保が重要な課題となった。
- ・そこで、「エネルギー地産地防」×「エネルギー6次産業化」の2つの軸から成るモデルを推進する。

【エネルギー地産地防】

- ・防災拠点や避難所となる各公共施設に太陽光発電・蓄電池を整備し、非常時に電気を供給する。
- ・避難所となるストロベリーパークに、小型木質バイオマス発電設備を整備し、非常時に熱電併給を行う。

【エネルギー6次産業化】

- ・小型木質バイオマス発電設備を導入して、排熱利用によりストロベリーパークにおいてイチゴ栽培を行うといった、新産業創出を進める。**第1次産業**（森林利用と保全）×**第2次産業**（再生可能エネルギー発電）×**第3次産業**（イチゴ栽培）をイメージとしている。

2 実施体制及び関係者連携

- ・「厚真ローカルベンチャースクール」の取組において連携していた、木質バイオマスなど森林資源を活用するノウハウを有する事業者が代表となり、町とともに、「厚真町エネルギー6次産業化コンソーシアム」を立ち上げて本事業を進めている。
- ・コンソーシアムが事業をマネジメントし、公募により、「設備導入担当事業者」と「施設運営事業者（熱電事業者）」を選定しており、設備を導入するとともに、運営方法等を検討している。

